

特別支援学校（聴覚障害）における キャリア教育実態調査報告書

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

聴覚障害教育研究班

平成 29 年 9 月

はじめに

我が国において「キャリア教育」という文言が公的に登場し、その必要性が提唱されたのは、平成 11 年 12 月、中央教育審議会「今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について（答申）」でした。

本答申では、「学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。」とし、「キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。また、その実施状況や成果について絶えず評価を行うことが重要である。（第 6 章）」ことが示されました。そして、本答申が示されてから、10 余年が経過しました。

現在、特別支援学校（聴覚障害）においては、在籍児童生徒の多様化（障害の程度、コミュニケーション法等）に対応し、幼稚部から高等部を視野に入れ、各段階を通してキャリア教育を推進しています。

また、近年は、学校卒業後までを見通した一貫教育の重要性が再認識され、キャリア教育の充実強化は、特別支援学校（聴覚障害）の解決すべき課題の一つとなっています。このような点を踏まえ、本研究所聴覚障害教育研究班では、全国特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の現状と課題を明らかにすることを目的として、アンケート調査を実施することとしました。

本調査報告書は、特別支援学校（聴覚障害）における学部（幼稚部、小学部、中学部、高等部）主事、キャリア教育を担当する分掌部に所属する教員を対象に実施し、その結果の概要をまとめたものです。本書が、今後の特別支援学校（聴覚障害）のキャリア教育推進の参考資料をして活用されることを願っています。

平成 29 年 9 月

聴覚障害教育研究班

原田 公人

特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育実態調査

目次

はじめに

第1章 調査内容	1
第2章 調査結果（学部主事・キャリア教育担当者）	3
1 回答者	
(1) 回答者の担当学部	
(2) 回答者の担当	
(3) 回答者の教職経験年数	
(4) 回答者の特別支援教育（聴覚障害）経験年数	
(5) 回答者の特別支援教育（聴覚障害）以外の経験の有無	
(6) 回答者の現在の勤務校在籍年数	
(7) 回答者の各学部の担当経験年数	
2 指導の実際	
(1) キャリア教育の指導場面	
(2) キャリア教育に関わる指導（個別指導、集団指導）	
(3) キャリア教育を実施する際に参考にしている資料	
(4) 個別の指導計画（個別の教育支援計画を含む）の活用	
(5) キャリア教育の推進・充実のために学部で課題であると思われるもの	
(6) キャリア教育の指導内容	
3 学校卒業後の進路	
4 キャリア教育に関わる指導内容の評価方法	
第3章 連携している関係諸機関と卒業生等との交流	23
(1) 連携している関係機関	
(2) 卒業生との交流	
(3) 卒業生の保護者との交流	
第4章 調査資料	25
1 学部主事	
2 キャリア教育担当者	

おわりに

資料 特別支援学校（聴覚障害）におけるキャリア教育の実態調査票